



河野大輔



高橋央史

コミュニティデザイン
創案委員会

特集①

委員長の想

資質向上委員会



大懇親会
おるまじ
記念式典



特集② 創立50周年記念大会を終えて



明るい豊かな社会の実現のために。
一般社団法人大竹青年会議所は
6月9日に創立50周年を迎えました。

一般社団法人大竹青年会議所HP
<http://www.otakejc.com/2018/>

大竹青年会議所





会員資質向上委員会
委員長 高橋 央史

本年度、会員資質向上委員会の委員長を拝命して、9カ月が経過しました。年間の活動計画については、昨年うちに完成しておりましたので、本年はそれを実行する1年となっています。

今年の委員会活動の中心は、「志」「現状把握」「実行」です。その3つの要素を3回の例会で学んでいくわけですが、その前提として委員長の私自身が3要素を実践しなければなりません。

「志」については、古典を読み、萩に赴くなどして多くのことを学び、「現状把握」については職の経験を活かし、法的な側面も含め、一般社団法人という組織について改めて考えることができました。ただ、やはりそこから得る発想を実行する、ということが大切であり、また難しいと感じています。

委員長としての経験を積む中で、今後自身がやりたいこと、提供したいことが山のように浮かんできますので、最近はそれをどうすれば早く、確実に実行できるかを考える毎日です。

その経験をさせてもらっている青年会議所、また、ともに活動している会員にはとても感謝しています。今後とも、会員資質向上委員会をよろしく願いいたします。

特集 ① 会員資質向上委員会 委員長の想い コミュニティデザイン 創案委員会

委員長を任命いただき、早9ヶ月が経過しました。6月例会では、地域としての青少年育成の必要性を、8月例会では、対外には協働活動のネットワーク構築の必要性を理解していただき、対内においては市民・諸団体を牽引する意識を高めていただく例会を行いました。委員会としてこの2つの例会を開催させていただき、地域で活動されている様々な方にお会いし、想いを伝え、想いを聞かせていただきました。そこには人と出会う喜びと、人に意志を伝えることの難しさという学びがありました。また、仕事と並行し、進行している活動について考え、資料を作成し、実行していかなければならない状況が、1日の時間をより濃密にしてくれています。

私の持っている問題を数多く浮き彫りにしていただき、気づかせていただく日々でした。人を巻き込むことの難しさ、力不足をまざまざと感じさせられました。しかし、この楽しくも苦しい日々が、この1年間をやり抜くことで、自分の力へと変えていきたいと思えます。地域のため、人のためが、自分のため。残り3ヶ月もより多くの方と出会い、悩み、ぶつかり、失敗してご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、しっかりと最後まで歩んでいきたいと存じますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



コミュニティデザイン創案委員会
委員長 河野 大輔



特集② 創立50周年記念大会を終えて



書道パフォーマンス



司会は久保田夏菜様



チャーターメンバー表彰



歴代理事長表彰



オープニングアクトタップダンス



鏡割り



三興化学工業株式会社様表彰



大竹一番太鼓童夢様と共演



創立50周年実行委員会
実行委員長 小山 剛司

1968年6月9日の一般社団法人大竹青年会議所の創立より50年を迎えた2018年6月9日に、多くの方々のご協力のもと、一般社団法人大竹青年会議所創立50周年記念大会を盛大に開催することができました。この日のために、昨年後半からの準備期間も入れ、約半年強の月日の中で、本当に多くのことがありました。

15名という少ない会員で、どうしたらこれまで50年という歴史を築き上げていただいた先輩諸兄をはじめ、関係諸団体の方々に感謝と敬意を伝えることができるのか、また、どうしたら今の現役会員の生き活きと躍動するところを表現できるのかを各部会長をはじめとする会員が日々知恵を出し合い、この日に向けて邁進してまいりました。

記念大会当日、会員ひとりひとりがそれぞれの役割に対し使命感をもって遂行している姿、そしてその姿に対し、ご出席いただけた多くの方々より労いの言葉や感動したというお言葉に本当に感激いたしました。

また、記念大会が終了した後に、多くの会員が手を取り合い感涙する姿は、この大竹青年会議所創立50周年を担う現役会員としての自覚に責任と自信を纏い全会員が惜しみなく発揮したからこそその大きな達成感と一体感の賜物であったと感じました。

結びになりますが、当日お忙しい中にも関わりませずご出席いただきました関係諸団体の皆様、加藤シニアクラブ会長をはじめとされます先輩諸兄の皆様、そして創立メンバーの皆様、また遠方より熱き友情のもとお集まりいただきました各地青年会議所会員の皆様に心より感謝申し上げます。

活動報告～例会を終えた担当者の想い～

5月例会 創立50周年実行委員会 実行委員長 小山 剛司

この度5月例会では、委員会タイムに6月9日に控える記念式典のリハーサルを行う手法を取り入れました。なぜなら、今の現役会員の3分の2の会員は周年というものを経験したことがなく、厳粛な雰囲気の中、緊張感を持ち、式典を執り行うことを経験することで創立50周年を担っているという自覚を培って頂きたかったからです。

例会当日には各々の役割を把握しながら実際に行動することで、責任感と自覚の引き上げができたと感じています。また、本番さながらに緊張感を持ち、執り行うことで今後の本番当日に向けての自信にも繋げることが出来たと思います。この例会は普段にはない形ですが、その中でも多くのことを各会員に得てもらえることが出来ました。



6月例会 コミュニティデザイン創案委員会 委員長 河野 大輔

6月例会では、大竹市で多様な活動をされている諸団体の方々と共に、呉工業高等専門学校地域連携コーディネーターの、谷村仰士氏を講師としてお招きし、地域としての青少年育成の必要性を学ぶことを目的として開催しました。講演の中で、世代間交流の機会の重要性、その効果について、江田島での活動紹介を交え人を巻き込む力を持つことの大切さを学びました。

また、グループディスカッションでは、大竹市の課題を考えて頂くことから、子どもと共に活動する具体的な案をお考えいただき、世代間交流の意義をより感じていただくことができたと思います。地域の想いある方々と繋がりを持ち、地域の大人として、地域の将来のために青少年育成を行っていくことが、子どもたちにとって必要であると学ぶことができた例会であったと考えます。

7月例会 会員資質向上委員会 委員長 高橋 央史

我々大竹青年会議所会員は、会をどう運営すべきか、この会でどのような活動をすべきかを考え、かつ的確な発想や行動を取っていかねばなりません。そこで、自身の会の現状の把握及び組織への理解を深めるために、大竹青年会議所の定款や諸規程などをひもとき、考える例会を開催いたしました。この度の例会では、一般社団法人と株式会社との比較から改めて定款というものを見直し、また、会員同士で考えることで、現状の認識を共有することができました。

今後は会員一人一人が自らの確固たる意識を持ち、会の運営、活動にあたっていかねばなりません。また、意識だけではなく、それを実行に移すことができるよう、委員会活動を続けてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。



8月例会 コミュニティデザイン創案委員会 委員長 河野 大輔

8月例会では、廿日市市自治振興課の米原様より、他の地域での協働活動についての講演をいただきました。また、NPO法人ハローの仲間代表の田端様からは、青少年育成について、協働のお話や、活動の問題点をお話いただき、その内容に対し、グループディスカッションを行いました。

一般参加者の皆様には、協働活動を推進するにはお互いの活動を知り、助け合うことのできるネットワーク構築が必要であると学んでいただけたと存じます。また、会員においては、事前打ち合わせ、講演、ディスカッションを通じ、一般参加者の多様な意見を聞き、自身の意見を発信し、まとめていくことで、地域を牽引していく意識を高めていただける貴重な例会であったと考えています。

大竹青年会議所は、

地域のまちづくり、ひとづくりを行う団体です



この度今年度3冊目の広報誌を作成させて頂きましたが、創立50周年記念大会という大きな節目を会員全員で乗り切ったことにより、会員同士の結束もより強まり、会員個人としても大きな自信を手にしたなと感じました。これからも大竹市のために尽力できるように精進していき、その会員の魅力をもっと伝えていきたいと思いました。 (編集後記 中野 友博)